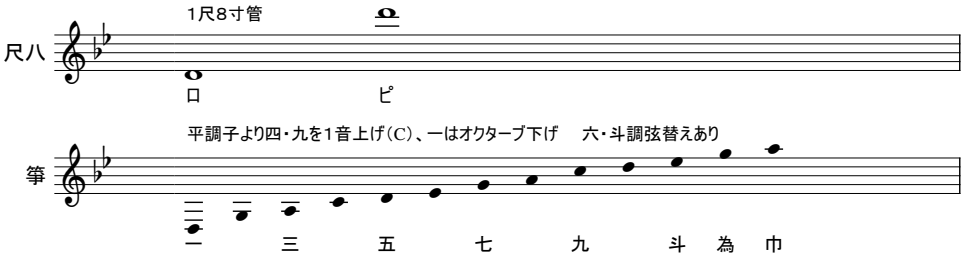
# 心の花（こころのはな）

加羅古呂庵 一泉

2024.11.25 作曲




運指、奏法については、適宜工夫していただいてけっこうです。



# 心の花

辞書を引くと、心の花とは、変わりやすい人の心を花にたとえて言うそうですが、この曲ではもう一つの意味――花にたとえられるような美しい心、風雅を求める心の意味で使っています。

松尾芭蕉（1644～1694）の『笈の小文』に

「弥生半ば過る程、そぞろにうき立心の花の、我を道引枝折となりて、よしのの花におもひ立ん」

とあります。わけもなくわきあがる風雅を求める心に導かれて、吉野の桜を目指そうと思い立ったそうです。

短いイントロのあと、「そぞろに浮き立つ」「弥生も半ば」「吉野の花へ」の３つのシーンで構成しました。

ちょっとしたイベントなどでも手軽に使え、お客さまに日本的な雰囲気も感じ取っていただけることを目指してみました。

参考文献：『雪月花のことば辞典』（宇田川眞人編、角川ソフィア文庫）

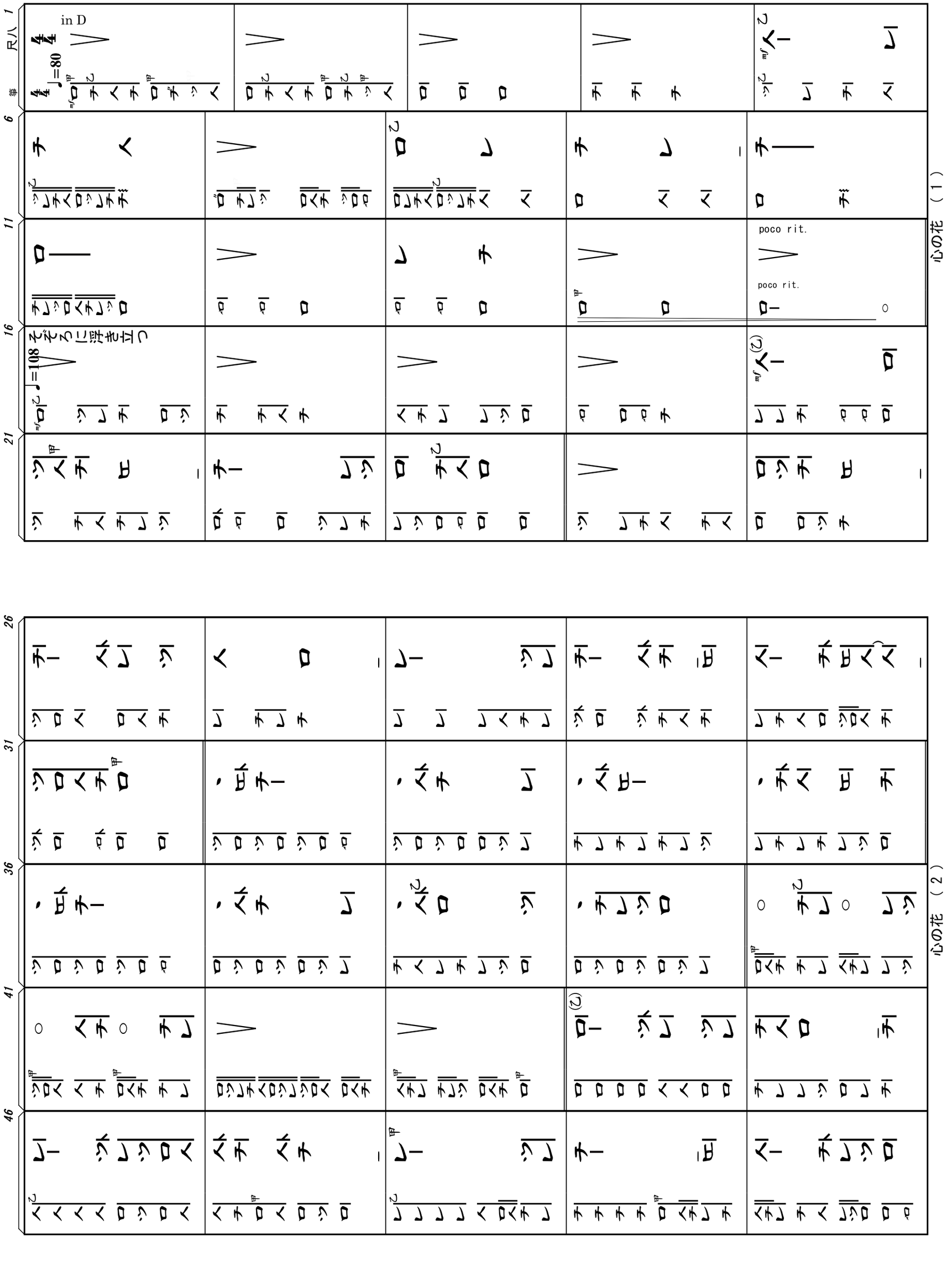
※縦譜（尺八譜）につきましては、箏のパートを補助的に記載しています。ただし、複数の音を集約し、オクターブも変えているところがあります。正確には、五線譜（スコア）をご参照ください。

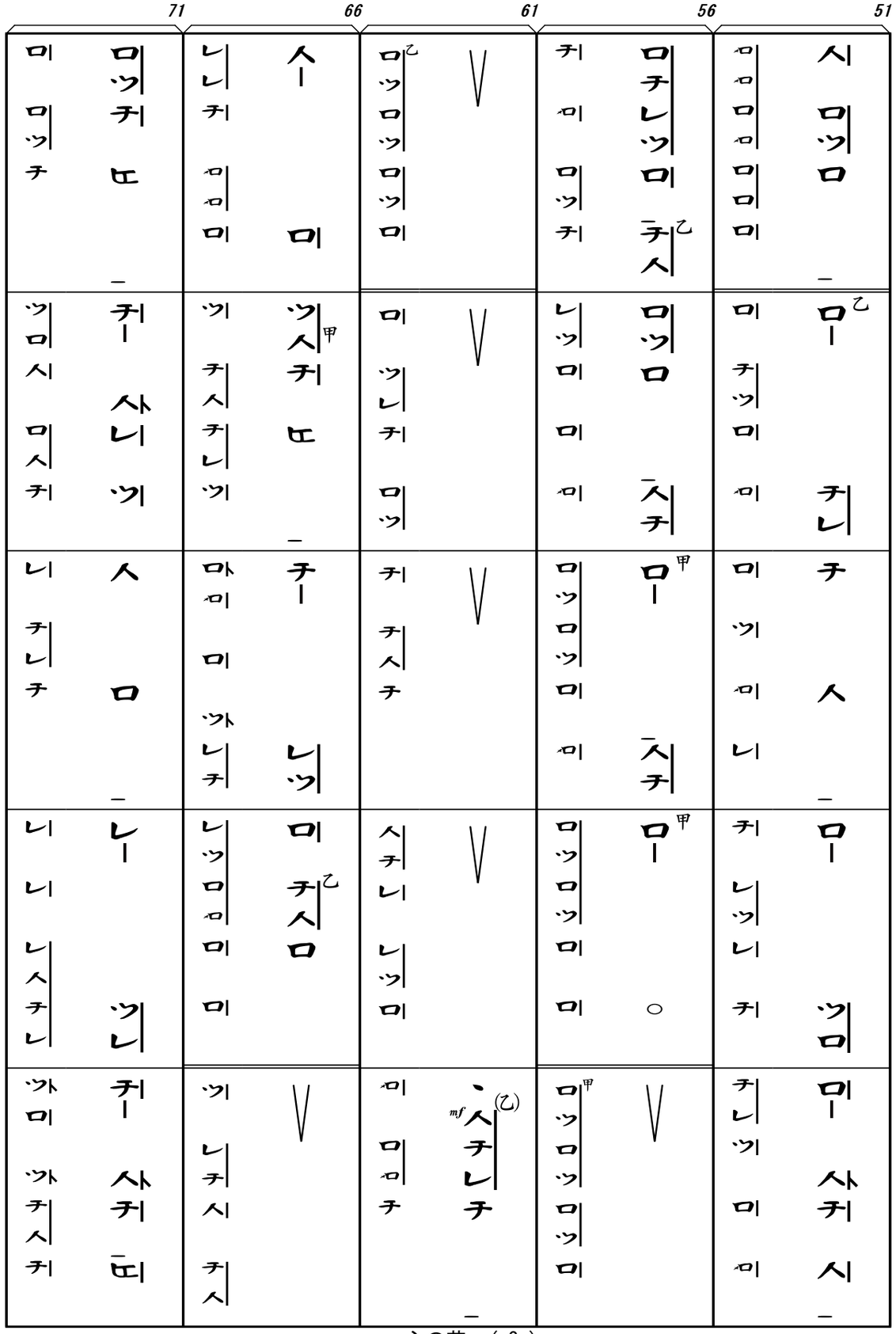
加羅古呂庵ホームページ

# 心の花

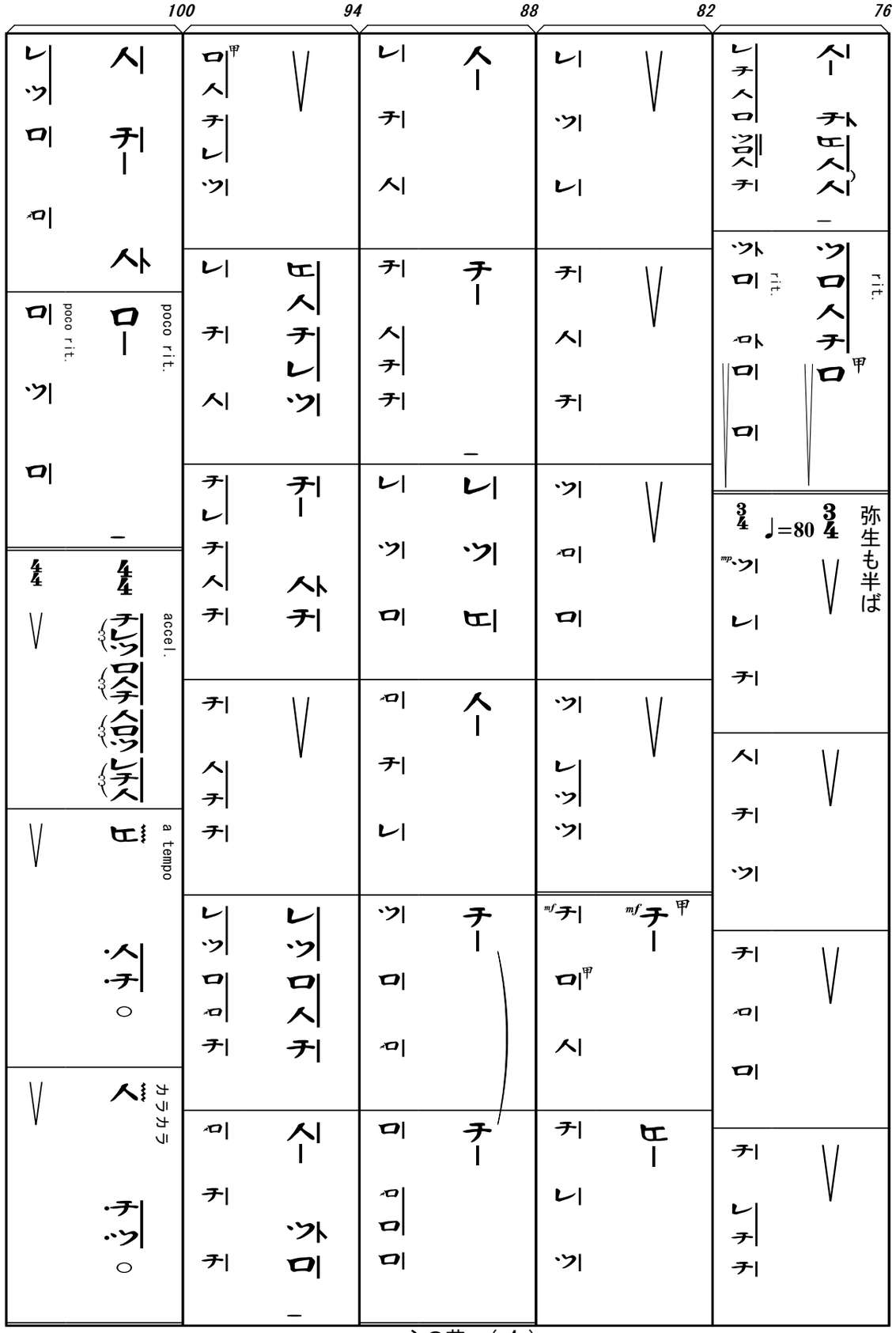
加羅古呂庵 一泉 作曲

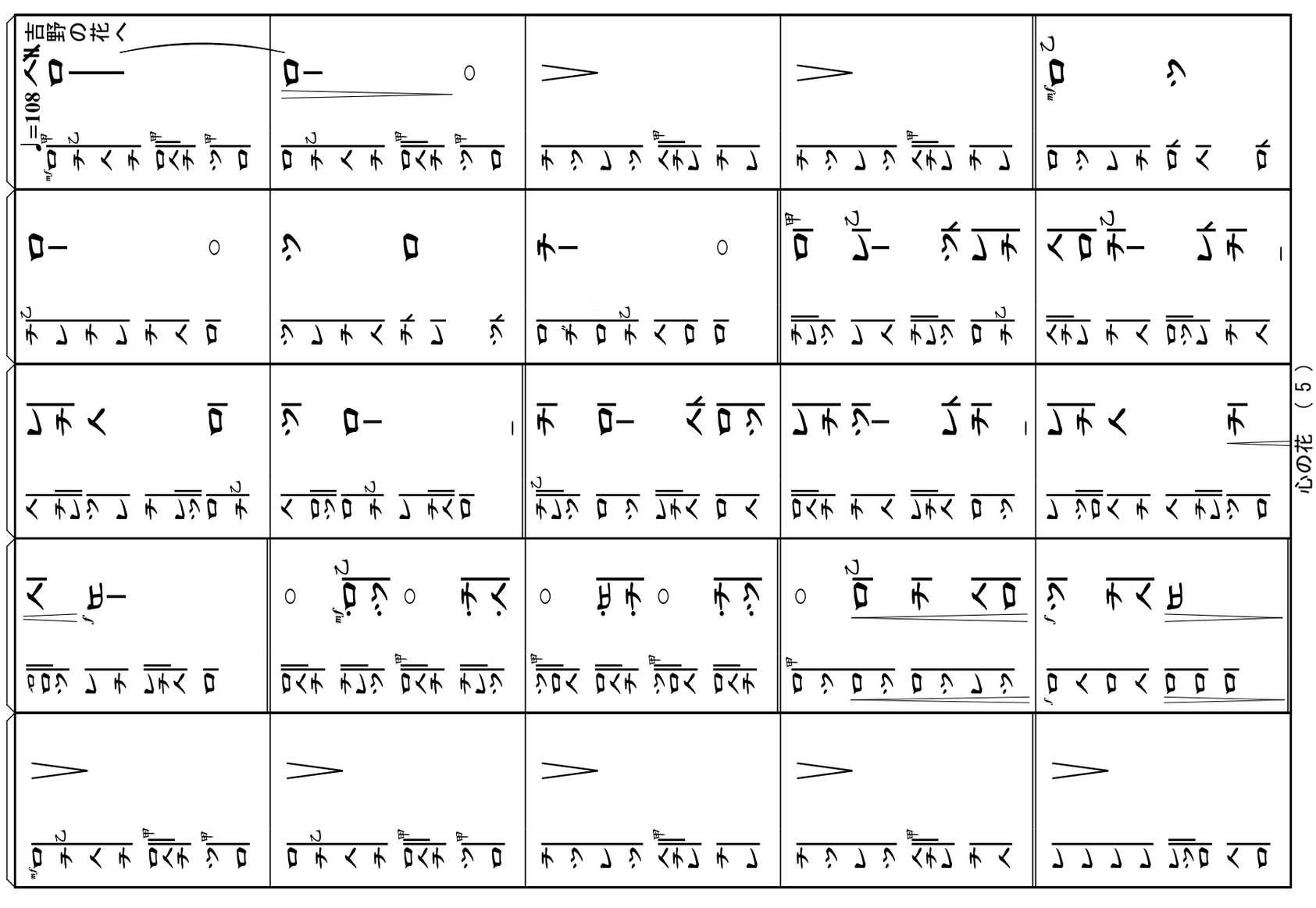
2024.11.25




51
56
61
66
71
乙
甲
乙




76
82
88
94
100
rit.
rit.
甲
弥生も半ば
3/4
♩=80
3/4
mp
mf
mf
甲
poco rit.
poco rit.
4/4
4/4
accel.
a tempo
カラカラ
甲








Produced by JapoScore version 4.9.6 on 2024/11/25.